

山下いづみ後援会レポート

発行 山下いづみ後援会 2015 年 1 月 号外

〒417-0001 静岡県富士市今泉 8-1 3-1 1

Tel&Fax 0545-53-2458

E-mail iyamashita64@cpost.plala.or.jp

Blog <http://izumiworld.exblog.jp>

討議資料



～笑顔あふれるまちをめざして～山下いづみは市政に挑みます！

◎ 観光・文化・芸術～富士市を散策したくなる環境づくり→観光客の定着

☆富士山に関連した富士市の歴史を大きくうちだす。→富士山信仰の中心であった東泉院（跡地は現吉原公園内）の名を広め、貯蔵品を通年展示する。☆散在する郷土文化の見える化→2～5 時間コースの富士市観光を強く打ち出す。田子浦港への客船寄港の拡大を目指す。☆これからの青少年の国際理解は不可欠→国際 NGO などの国際会議の誘致→青少年に生の体験の場の提供。☆芸術鑑賞が気軽にできる空間を増やす→観光客のおもてなしに踊り・歌・音楽を根付かせる。

◎ 教育・福祉～子どもの笑顔が天下一品の環境づくり・安心して老いることができる街づくり

☆親が疲弊、DV 家庭、虐待などで弱っている子どもたち→子どもと大人、家族全体を包括して支援できる仕組み作り→米国、台湾、韓国で構築されている家族生活教育支援プログラムを富士市にてパイロット的に進める。☆外国の子どもたちの語学習得と日本の教育への適応支援→富士市国際交流라운ジの運営強化。☆本人、家族の認知症への不安を取り除く→バリデーション（認知症の人とのコミュニケーション法）の普及。

◎ 防災～地域防災充実へ人の輪づくり→女性のニーズに応え、青少年の力を活かす

☆災害時の女性の身体と心の安全は女性が決める。→防災組織の運営に女性参画の割合を拡充する。☆災害時の率先力は青少年！→防災訓練に青少年の持ち場を増やす。☆災害時を想定し、高齢者、障がい者の安全な避難経路の構築。

◎ 自治～調和と公平が保たれた自治運営の仕組みづくり→住民サービスの平等

☆住民ニーズに対応するよう、役所の縦割りの弊害をなくし、柔軟な対応を促す。議会は、一部の団体のためだけではなく、市民全体のよりよい生活を目指して、活動していく。

◎ 産業～富士市の産業復興に彩りづくり→紙産業、茶産業の歴史と芸術性を広めるプロジェクトの推進 ☆紙フェアの充実。トイレットペーパーなどの生活品に加え、手書き文化を支える紙の普及。美味しいお茶の入れ方と茶歴史の紹介を学校や企業に推進。→静岡県はお茶の生産量・消費量は日本一→緑茶の良さを再認識し、緑茶の香り・味・色を楽しみ、健康推進につなげる。



山下いづみ略歴 昭和 39 年生、富士市今泉出身

吉原高校卒業、米国ミシガン州立大学大学院修士、A-1 スイミングスクール水泳コーチ、ヤマハ子どもの英語教室講師、ホームエコノミスト、富士市議会議員（平成 19～23 年）、上和田町内会副会長、地域防災女性班、国際交流育成部会員、（一社）大学女性協会理事・静岡支部長、バージニアギルダスリープ国際基金開発委員、フィットセラピー（植物療法）アドバイザー、日本茶アドバイザー、家族生活教育関連著作 4 冊、内、中学校家庭科教科書一冊、趣味：旅（現在 43 カ国）、絵画、社交ダンス、俳句（毎月富士ニュースに掲載：ランブル富士句会）

応援メッセージ



関西福祉科学大学准教授
認定バリデーション・ティーチャー
都村尚子

社会福祉士など、ソーシャルワーカーの卵を育てる教員を仕事として

いるものです。その一方で、認定バリデーション・ティーチャーとして、「バリデーション」という認知症高齢者とのコミュニケーション法を普及し、正しくその方法を実践できる「バリデーション・ワーカー」を育てるお役目をいただいています。

激増する認知症高齢者を最後までその人らしく尊厳ある人生を送っていただくために、その方が何を望み、私たちに何を伝えようとしているのか、明らかにすることが何よりもまず、重要課題だということは間違いがありません。にもかかわらず、この病気は、ご本人の意思が確認できなくなる、「コミュニケーション障害」を余儀なくしてしまいます。認知症と共に生きざるを得ない高齢者の想いや願いを代弁する、あるいは正しく理解することなしに尊厳ある人生を全うしていただくことは実現できません。

ここに今、まさに「バリデーション」への社会からの期待が高まっている大きな要因があります。この方法にいち早く、意義を見出し、支援をつづけてこられたのが、山下いづみさんです！！

いづみさんは、この方法論の開発者であるナオミ・ファイル氏の初来日からほぼ12年間、毎回、ナオミさんに同行され、通訳としての役割を果たしてこられました。アメリカから80歳を超えてもナオミさんが毎年お越しになられるのは、いづみさんがナオミさんの滞在をサポートされ、深い信頼を寄せておられるから可能になっているのだと私は感じています。

さらに、山下いづみさんは富士市に働きかけて、市内の介護保険事業所に従事するスタッフの方々にむけての長時間のバリデーション研修会開催を実現されました。しかも2年度連続で・・・。

ですから、このような力と熱い心をお持ちの山下いづみさんを私は心から応援しています。



ノンフィクション作家
高瀬 毅

日本の政治にいま最も必要なのは、泥にまみれても道を切り開こうとする政治家です。都会での孤

独死の多発と地方の耕作放棄地の増加は、東京一極集中の政策の限界を示しているのではないのでしょうか。これからは国を動かす原動力となるのは地方からの改革です。山下いづみさんは、まさに時代が求める政治家像を体現しています。目標達成の行動力は経歴が証明しています。会って話を聞けば、それは確信に変わります。「無縁社会」という言葉を無くし、温かみのある「有縁社会」に変えてくれることを期待しています。



鹿児島県立短期大学准教授
倉元綾子

山下いづみさんとの出会いは、
2004年、京都で開催された国際家政学会でした。アメリカから戻り、家族

生活教育を普及させたいと熱く語ってくれました。学会の他のメンバーや私は、どのようにしたら、家政学や家政学者が社会貢献することができるかを模索していましたので、彼女と意気投合しました。この出会いの後、彼女を中心としてアメリカ・台湾・韓国に関する調査や研究を始めました。また、子どもや女性、家族の幸せを願って、家族生活教育の講義やワークショップを学会や地域で進めてきました。山下いづみさんの情熱、実践力、行動力がなければ、この10年間で歩みつづけることはできなかったでしょう。山下いづみさんは、家政学者として、子どもや女性、高齢者、生活者の視点から、よりよい政策を提言し、実行することができる力をもっています。山下いづみさんを強く推薦いたします。